

西宮神社の由来

福島・日吉神社の右隣に鎮座する、「西宮神社」の由緒について調べてみた。

私の幼年の頃、吉原釜屋道の「源兵衛山」の裾にあった記憶がある。

そして、当時は「恵比寿様」と呼んで、機業の盛んな時代でもあったので、十一月の二十日頃、各事業場が『恵比寿講』と呼ぶ、従業員の慰労会をするのが習慣であった。

その時分になると、恵比寿様に赤い幟旗が立ち、時には「お供え物」も多かったものであった。

この『恵比寿様』は、言い伝えでは明福万吉さんの屋敷の後ろにあったものだという言い伝えがあった。

従つて、何処かの『屋敷神』ではなからうかという説も聞いた事があるが即断は出来ない。

西宮様は普通夷(えびす)神で、大浜の西宮神社と同じく漁業の神であるから豊漁を祈る漁業の神であることは間違いない。

吉原釜屋町は、太平洋戦争前までは細々ながら漁業が行われており、昭和一桁台には、鯖などを大量に運んで、県道沿いの福島、高田酒店の前の広場に水揚げされた鯖が、恵比寿神社の前を息せききって運ばれ、山のようになっていた記憶が鮮明である。

高田さんは、馬車運送もしていたので、この鯖を馬で運んでいたのも見た記憶がある。

吉原釜屋道は、峠の様になっており、下ると吉原釜屋までは一面の桑畑であったし、静かな平和な峠道であったと記憶する。

従つてこの道には『戎様』『恵比寿様』『夷様』が、いつもにこにこ笑つて子供たちの遊びを御覧になっていたような気がするのは私一人ではないように思う。

根上町で最も古い、鳥居と手水鉢

西宮神社は、「源兵衛山」から現在の日吉神社の右側に安置されて何年か経たが、鳥居に「天保十二年(一八四七年)の年号が彫られている。

これは根上町に沢山の神社がある中で最も古い年号の鳥居である。

日吉神社を現在地に創建したのは、明治三十八年以後であるから、新しく作ったものならば「田んぼの神様」から、運んで来たものか、という疑問が残る。

更に、現在参道の南側(村元さん)の方に、使用することなく置いてある手水鉢の左側に、幕末の嘉永七年(一八五四年)の年号が入っている。

以上のように、根上町には多くの神社があるが、幕末とは言え、二つの古い時代の祭具が残っていることは更に詮索すべき問題である。